

病害虫 防除だより

No. 385

令和8年3月31日

適正な温度管理でイネの苗立枯病害を予防しよう!!

4月から5月の気温は平年より高い見込みで、**苗が30℃以上の高温に遭遇し、細菌による苗立枯の発病リスクが高まる**恐れがあります。

一方で天気の周期変動等により極端な低温となり、5℃以下の低温に遭遇すると苗立枯病が発生しやすくなります。**適正な温度管理と適切な薬剤散布により、健苗づくりに努めましょう。**併せて、育苗箱は必ず洗浄、消毒したのを使用しましょう。

1 育苗温度

- 浸種期間 …… **20℃を超えない**ようにする。
- 出芽期間 …… **30℃を超えない**ようにする。
- 育苗期間 …… **夜間5℃以下、昼間25℃以上**にならないようにする。

- 細菌性病害は気温が高いと発生しやすく、高温管理で**爆発的に蔓延する**。快晴時には早めにハウスの換気を行う。
- カビによる立枯病は夜間の温度が低いと発生しやすい。低温時には保温対策をする。

2 床土およびかん水管理

- 病原菌に好適な環境にしないよう、**床土pHは4.5～5.1程度**とし、厚播き・多肥は避ける。
- 天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。
- ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。



3 薬剤防除(主なもの)

その他、詳しくは農作物病害虫防除指針をご覧ください。

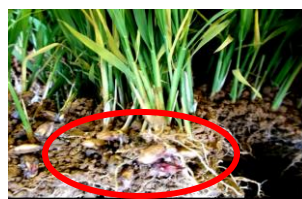
対象病害名	薬剤名	FRAC	使用濃度	使用量※	使用時期	使用方法	使用回数
苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌)	タチガレン液剤	32	500～1000倍	500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
ムレ苗防止	タチガレースM液剤	32,4				土壌灌注	1回
苗立枯病 (リゾプス菌)	ダコニール1000	M5	500～1000倍 1000～2000倍	500mL 1%	は種時から緑化期 但し、は種4日後まで	土壌灌注	2回以内
苗立枯病 (トリコアルス菌) (フザリウム菌) (リゾプス菌)	ダコレート水和剤	M5,1	400～600倍 800～1200倍	0.5% 1%	は種時から緑化期 但し、は種4日後まで	灌注	2回以内
幼苗腐敗症 (もみ枯細菌病)	カスミン粒剤	24	-	15～20g	覆土前	育苗箱ごは種した種籾の上から均一に散布する。	1回
褐条病 苗立枯細菌病				30g	は種前	育苗培土ご均一に混和する。	

※育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り

- 細菌性病害は、**発生後の防除薬剤がないため予防対策をとる**。5月中旬移植ではハウス内の高温・多湿が予想されるので、必ず播種時に前もって薬剤防除する。



ピシウム菌による苗立枯病 (ムレ苗)



フザリウム菌による苗立枯病



苗立枯細菌病



褐条病

◇◇◇ 最新の農薬登録情報(<https://pesticide.maff.go.jp>)を確認して下さい ◇◇◇

福井県農業試験場病害虫防除室

福井県病害虫防除室

連絡先：0776 (54) 9315

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>

二次元コードをスキャンしてください→



農薬の飛散に注意しましょう

農薬の安全使用に努めて適期防除しましょう